

# 眼瞼結膜「プラスモーム」

濱田 豊介 (岡山)

生理的狀態ニ於テモ「プラスマ」細胞ハ身體諸臓器内ニ證明サレ亦種々ナル疾病殊ニ慢性ノ疾患ニ際シテハ其病竈内ニ尙ホ多數増加スルモノナリト云フト雖モ「プラスマ」細胞ヲ以テ殆ド主成分トシテ腫瘍狀肥厚増殖ヲナスモノアリ Boile ンハモルガニー氏竇内ノ假聲門帶ニ Pirone ハ齒齦ニ Werth ハ懸壅垂ニ發生セリト報告シ一千九百八年 Pascher ハ結膜及ビ角膜ニ腫瘍狀肥厚ヲ形成セル疾病ニ遭遇シ此ノ部ヲ切除鏡檢シタルニ殆ド「プラスマ」細胞ヨリ形成サレタルヲ認メ Pascher ハ「プラスモーム」及ビ後ニハ「プラスマ」細胞性結膜炎ト命名シテ三例ヲ報告セシ以來眼球及ビ附屬器ヲ犯シタル例ハ其後 Rund, Rados, Deutschmann, Pokrowsky, 本邦ニ於テハ澤田、坂原、藤原、久保木、中野、瀬尾、三根、藤平氏尙ホ最近ハ中島氏等ノ報告ヲ讀ムニ至レリ、斯ク「プラスモーム」ノ症例多數ナリト雖モ「プラスモーム」ノ種々ナル關係ニ於テハ尙ホ幾多ノ論議サル、所アルナレバ余モ一例ヲ此處ニ記載シ置クベシ。

## 實 驗 例

患者 安原某、男、農、二十七歳。

患者ハ遺傳的關係ニ於テ特ニ記載ス可キモノナク生來健康ニシテ疾病ニ罹リタルコトナシ數年以前兩眼「トラホーム」ニ罹リ治療ヲ受ケタルコトアリト云フ其外眼疾ニ罹リタルコトナシ右眼ガ二三日以前ヨリ突然上眼瞼腫脹シ下垂シ來リ輕度ノ異物感、流淚、眼脂多量トナリ附近ノ醫師ノ診斷ヲ乞ヒシニ病名不明ニシテ直チニ何等ノ處置ヲ受クルコトナク當眼科ニ送ラレタルモノナリ。

現症 患者ハ體格、營養良ク全身の疾患ヲ認メズ淋巴腺殊ニ耳前腺、顎下腺等ノ腫脹ナク亦罹患前後ニ發熱ヲ呈セズ。

濱田—眼瞼結膜「プラスモーム」

眼所見 右眼、上眼瞼皮膚ハ眼瞼軟骨部ニ相當シテ稍々輕度ノ發赤ヲ呈シ亦下垂シテ瞼裂狹小トナレリ、開眼ヲ命ズレバ上眼瞼ノ舉上困難ナリ、觸壓スルニ皮下ニ於ケル眼瞼軟骨甚ダシク肥厚セルカノ如ク硬固ニシテ勿論皮膚トノ癒着ナシ、上眼瞼ヲ反轉セントスレバ多少困難ヲ覺ユレドモ反轉セル眼瞼結膜面ヲ見レバ普通ノ反轉セル結膜面ヨリ廣ク表面一般ニ淡紅色ヲ帶ビ粗糙ニシテ不平坦ナリ上下徑ハ十五耗内外徑ハ三十二耗ニ及ビ斯ル病變ハ決シテ限局スルコトナク眼瞼結膜全部ニ汎リテ平等ニ顯レタリ。下眼瞼結膜ニハ斯ル病變ナク只ダ癢痕性「トラホーム」ノ存在ヲ認ム、眼球結膜ハ輕度ニ發赤シ角膜其他ニ毫モ異狀ナシ。

左眼ハ上下眼瞼結膜ニ癩痕性「トラホーム」アルノミニテ其他ニ異狀ナク視カモ左右共一・二ナリ以上記載セル症候ヨリシテ吾等ハ癩痕性「トラホーム」及ビ結膜「プラスモーム」ノ診斷ヲ下シ此ノ「プラスモーム」ヲ切除ス可ク企テタリ、眼科用圓刃刀ヲ以テ眼瞼縁ニ平行ナル切開線ヲ入レ更ニ穹窿部ニ横切開線ヲ入レ病變部ハ眼瞼軟骨ト共ニ切除シ創口ハ結膜ヲ以テ被ヘル術式ヲ取リテ手術ヲ終レリ手術中ハ可成リ出血セリ然ルニ創口ハ何等後遺症ナク一期癒合ヲ成シ再發増殖肥厚ノ模様更ニナク上眼瞼ノ重感全ク去リ開眼容易トナリテ患者ハ喜ビ退院セリ。

切除シタル組織ヲ見ルニ眼瞼軟骨ノ上ニ明カニ結膜ノ肥厚ヲ認ムルコトヲ得其厚サハ約二耗ニ達シ其組織ヲ壓スルニ多少軟ニシテ小顆粒狀ヲ呈スルガ如シ組織片ハチエンケル氏液固定「チエロイザン」切片トナシ染色法ハ「エオジンヘマトキシリン」染色、ワンギートン氏染色、ウナンバツペンハイム氏「メチールグリーン」染色、ルッセル氏染色法ヲ應用シ鏡檢セリ。

#### 組織的所見。

斯ル肥厚増殖セル組織ヲ鏡檢スルニ漸クニシテ眼瞼軟骨部ト結膜上皮層トヲ區別スルコトヲ得テ兩層ノ間ニ密ニ多數ノ「プラスマ」細胞顯レ殆ド他種ノ細胞ヲ見ザルガゴトキ感テ懐カシム、「プラスマ」細胞ハ圓形或ハ橢圓形ノ原形質内ニ美シキ車軸狀ノ排列ヲ呈シテ「クロマチン」質ヲ有セル圓形ノ核ガ原形質ノ一隅ニ存在スルガ如キ所謂定型的ノ「プラスマ」細胞多數ヲ占ム然ルニ「プラスマ」細胞ノ大サモ種々ニシテ *Uma* ガ *Tochterzellen* ト命名セル小型

「プラスマ」細胞可成多數認メラル其他時トシテ「プラスマ」細胞内ニ二箇ノ核ヲ有スルモノ亦原形質内ニ空泡ノ形成サレタルモノヲ見ルコトヲ得タリ、ルッセル氏小體ハ「プラスマ」細胞ノ内外ニ見ルコトヲ得ザレドモ原形質ノ破壊産物トモ認ム可キ微細ナル顆粒狀物ノ所々細胞間ニ散在セリ。

結締組織維ハ基底部ニ濃厚ニシテ即チ眼瞼軟骨ヨリ出テ、結膜表面ニ走り著シク微細ナル纖維ニ分カレテ「プラスマ」細胞間ヲ走り處々ニ狭長ナル結締組織細胞ノ核ヲ見ル。

血管ハ基底ヨリ表層ニ向ツテ走り表層ニハ極メテ小ナル血管多數新生シテ密在セリ血管内ニハ赤血球、中性多核白血球、「エオジン」細胞、多數顯レ此等ノ細胞ハ血管内ノミナラズ血管ニ近キ周圍ニモ少數ナガラ顯ハル、而シテ血管ニ近ク「プラスマ」細胞ノ密集スルガ如キ傾向アリ。

上皮ハ「プラスマ」細胞増殖ノタメニ著シク壓迫セラレ殆ド扁平ナル層ト變化シ所々ニ於テ増殖組織内ニ向ツテ陷入ヲ造レリ上皮細胞ハ普通ノ形態ヲ失ヒ狹長トナリ從ツテ核モ長形ヲ帶ビタリ。

眼瞼軟骨ハ亦著シク「プラスマ」細胞ノ浸潤ヲ受ケマイボム氏腺ノ間ヲ充タセリ而シテ「プラスマ」細胞ガ軟骨ヲ貫キテ尙ホ外部ニ浸潤ヲ及ホセル所ヲ見ズ。

從來ノ報告ニ依レバ「プラスモーム」内ニ屢々變成部ノ存在及ビ肥胖細胞ノ出現ヲ説カレタルモ余ノ實驗例ニハ見ルコト能ハザリキ。

以上ノ所見ニ依レバ余ノ實驗例ハ明カニ *Pascher* 竝ニ其他ノ諸氏ニ依リ「プラスモーム」或ハ「プラスマ」細胞性結膜炎トシテ報告サレタルモノニ一致ス可ク春期「カタル」或ハ膿漏眼等ノ際ニ多數出現スルト雖斯クノ如キ「プラスマ」細胞

ノ増殖ヲ形成スルモノニアラズ。

結膜ニ於ケル「プラスモーム」ナル名稱ハ Pascheff ガ初メ眞性腫瘍ト見做シ命名シタルモ其後同氏ハ「プラスマ」細胞性結膜炎ト命名スルヲ至當ナリト訂正セル如ク此ノ「プラスモーム」ノ本態ニ關シテハ或ハ眞性腫瘍ナリト云ヒ或ハ炎症性肉芽腫ナリト云フ。

眞性腫瘍論者ノ根據トスル所ハ細胞ノ多數ナルコト、腫瘍細胞ノ單一ナルコト、炎症細胞浸潤ノナキコト、血管内ニ多核白血球ヲ欠缺スルコトヲ以テ「プラスモーム」ハ眞性腫瘍ナリト云ヘリ然ルニ余ノ實驗例ニ依レバ鏡檢セル組織ハ殆ド「プラスマ」細胞ヨリ成ルト雖其間ニ細血管ノ新生、少數ノ中性多核白血球、「エオジン」細胞等混在シ殊ニ眼瞼軟骨及ビ結膜上皮層ニ近ク淋巴細胞ノ存在スル所ヲ認メ亦血管内ニハ多核白血球ノ存在スル處ヨリ見レバ眞性腫瘍ト云ハンヨリモ炎症性肉芽腫ナル可シト思惟ス。

### 「プラスモーム」及ビ「トラホーム」ノ關係。

中野氏、藤平氏等ハ臨牀上及ビ組織上全然「トラホーム」ト關係ノナキ「プラスモーム」ヲ報告シ之ニ反シ澤田氏、藤原氏等ハ「トラホーム」ト關係アル「プラスモーム」ヲ實驗シ瀨尾氏等ハ「プラスモーム」中ニ「トラホーム」臚胞ヲ實驗シ Rados, 鹿野篠原氏等ハ「プラスモーム」ニ「トラホーム」性角膜、パンヌス「ヲ合併セルモノヲ報告シ益々「プラスモーム」ト「トラホーム」トノ間ニ原因的關係ヲ説クニ至レリ余ノ例ニ於テハ左右共癍痕性「トラホーム」ヲ合併シ病歴ニ依リテモ「トラホーム」ニ罹患シ治療ヲ受ケタルコトアリト云ヘバ余ガ實驗セル「プラスモーム」ハ「トラホーム」ヲ合併セルモノナリ然ルニ吾ガ邦ノ如キ「トラホーム」ノ多キ邦ニ於テ「プラスモーム」ト「トラホーム」ト合併セリトテ直チニ原因的關係ヲ云々ス可キニアラズ實際亦「プラスモーム」ノ中ニハ「トラホーム」ノ性質ヲ有スルモノト全然關係ナキモノトアル可シ、故ニ「プラスモーム」ハ「トラホーム」其他ノ原因ニ依リ結膜組織ガ刺戟ヲウケ此處ニ異狀増殖ヲ呈シ結膜ノ異狀肥厚ヲ來スモノナリト云フ見解ニ左袒ス。

## 「プラスモーム」ノ性質。

「プラスマ」細胞性腫瘍ハ Wright, Hoffmann ハ著シク悪性腫瘍ナリシヲ報告シ Quackenbross ハ眼窩骨壁ヨリ發生シ眼球突出ヲ招來シタル悪性ノ多發性髓様腫ヲ報告セリ然ルニ Merth (懸壜垂) Pirone (齒齦)・Boit (モルガニー氏竇)ガ報告セルモノハ皆善性腫瘍ナリ結膜ニ於ケル「プラスモーム」ハ從來ノ數多ノ報告ニ依レバ殆ド善性ノ新生物ニシテ悪性ノ經過ヲ取リタルモノナシ只ダ坂原氏ノ例ガ眼瞼結膜角膜ニ汎發性肥厚ヲ呈シ善性腫瘍ト云フ事能ハズ然ルニ「プラスモーム」ガ全身的關係ヲ有セザルコトハ先輩諸氏ノ唱フル所ニシテ余ノ例ニ於テモ身體ニ異狀ヲ認メズ故ニ結膜ノ「プラスモーム」ハ他ノ腫瘍ノ如ク移轉、近部臟器ニ向ツテ間斷ナキ増殖ヲ起スコトナク從來諸氏ノ取ラレタル處置ノ如ク「プラスモーム」發生セバ増殖部ヲ切除セバ可ナリ、一部尙ホ殘在セル場合ニ於テモ之レヨリ再發増殖セルモノナシト云フ。

## 「プラスマ」細胞ノ起原。

「プラスマ」細胞ナル名稱ハ初メテ一千八百七十四年 Waldeyer 氏ニ依リ命名サレタルモノニシテ原形質夥多、「クロマチン」ニ富メル粗大ナル顆粒ヲ有スル核ヲ有シ血管周圍ニ排列スルニツノ特性ヲ擧ゲタリ次イデ Ranomy, Ceyal ハ扁平濕疣ニ Unna ハ狼瘡中ニ此ノ「プラスマ」細胞ヲ發見スルニ至リ更ニ生理的狀態ニ於テ骨髓、淋巴腺脾臟内ニ存在シ亦病的狀態殊ニ炎症性疾患、腫瘍等ノ際ニ多數出現スルモノナリト云フニ至レリ。

然ラバ此ノ「プラスマ」細胞ハ何處ヨリ成立シ來ルモノナリヤ。

一、Unna ノ Fibroblastische Theorie. Unna ハ「プラスマ」細胞ハ Fibroblasten ヨリ發生スルモノナリト唱ヘ Marchand ハ血管外膜細胞ヨリ發生シ來ルモノナリト云フ。

二、Marschalkosche Haemolymphozytische Theorie. Marschalko ハ本細胞ハ Fibroblasten ヨリ生ズルモノニ非ラズシテ遊走性淋巴細胞ヨリ生ズルモノナリト、其他 Flemming ハ小淋巴細胞ヨリ「プラスマ」細胞ヲ生ズトシ Krompecher,

Schöttländer, Schlessinger ハ「プラスマ」細胞ハ大多數ハ淋巴細胞ヨリ一部ハ多核白血球或ハ單核白血球ヨリ發生スルモノナリト。

### 三、Dualistische Theorie

之レハ一部論者ノ説ク所ニシテ「プラスマ」細胞ハ一部ハ血液淋巴細胞ヨリ一部ハ結締織ヨリ生ジ兩者ハ同一組織中ニテハ區別困難ナリト云フ。

以上ノ如ク「プラスマ」細胞ノ由來ニ就キテハ種々ナル説明ヲナスモノナレドモ此ノ發生問題ニ就キ只ダ鏡檢シタル一例ノ「プラスモーム」ニ依リ云々スルハ不可能ナリ然ルニ余ガ遭遇セル「プラスモーム」ニ於ケル「プラスマ」細胞ノ態度ニ依レバ「プラスマ」細胞ハ Unna ノ Tochterzellen ト稱スル所謂小型「プラスマ」細胞ヨリ定型的「プラスマ」細胞ニ至ルマデノ種々ナル中間型ノ「プラスマ」細胞ヲ見ルコトヲ得、而シテ小型「プラスマ」細胞ハ血管周圍ニ近キ程多數存シ之レヲ遠ザカル程中間型ヲ經テ定型的「プラスマ」細胞排列セルガ如キ状態ヲ認ム、サレバ「プラスマ」細胞發生ハ Marschalko ガ説ク如ク血管ニ關係アルガ如ク淋巴細胞ヨリ小型「プラスマ」細胞ヲ經テ定型的「プラスマ」細胞ニ進化スルガ如キ想像ヲ抱カシムルモノナリ。

終リニノゾシ恩師藤田博士ノ御校閲ヲ深謝シ病理學教室ニ對シ感謝ノ意ヲ表ス。

### 文 獻

1. 藤平；眼球結膜ニ發生セル「プラスモーム」ノ一例 日・眼 24 卷 S. 257.
2. 三根；眼球結膜「プラスモーム」ノ一例 日・眼 23 卷 S. 34.
3. 瀨尾；結膜「プラスモーム」ノ異型ト認ムベキトヲホード「性一新生物 日・眼 20 卷 S. 1231.
4. 中野；結膜「プラスモーム」ノ一例 日・眼 19 卷 S. 1100.
5. 久保木；眼瞼ニ發生セル巨大ナル「プラスマ」ノ一例 日・眼 20 卷 S. 554.

藤田一監檢圖「プラスモーム」

18

6. 藤原；結膜「ゾラスモード」一例 日.眼. 18 卷. S. 1141.
7. 坂原；前眼部、眼瞼、結膜、角膜の「ゾラスモートーシス」 日.眼. 18 卷. S. 839.
8. 中島；「トヲホード」様顆粒ヲ發生セル眼瞼結膜「ゾラスモード」一例ニ就テ 中.眼. 第 14 卷. 第 11 號.
- 9) Pascheff; Plasmazelluläre Bildung der Bindehaut und Hornhaut, Arch. f. Ophth. 1908.
- 10) Rund; Über ein plasmazytom der Conjunctiva Zeitschrift f. Augenheil, 1911.
- 11) Rados; Über Plasmome der Bindehaut Zeitschrift. f. Augenheil, 1913.

## 圖 解

第一圖 弱擴大顯微鏡所見。

第二圖 強擴大顯微鏡所見。

圖 一 第

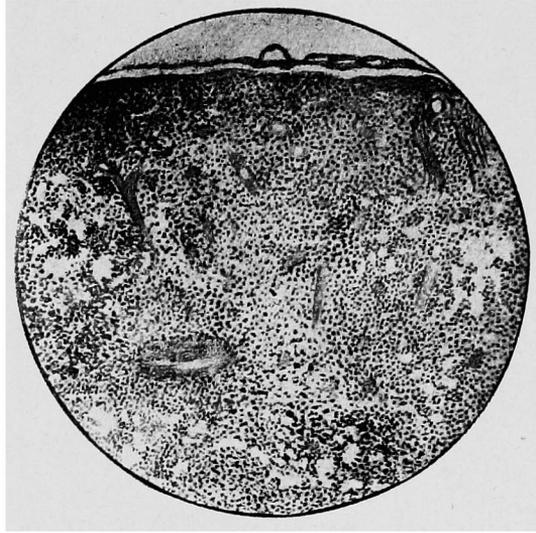


圖 二 第

